

一 般 質 問 通 告 書

令和6年5月20日

議 会 議 長 様

議席番号 10 番

議員氏名 宮 田 雄 一

質 問 事 項	質 問 要 旨	指 定 答 弁 者
1. 東口通り線のデザインと機能は	<p>東口通り線は単なる交通の便を向上させるだけでなく、現在と将来の住民の生活の質を高め、町の顔とも言える重要な公共空間の再構築を目指していると認識しています。デザインと機能性は使い勝手と賑わいに直結し、町の魅力を左右する決定的な要素のひとつだと考えています。将来の杉戸町を象徴するランドマークのひとつとして、また、町民が日常的に集い、楽しむことができる場所として、どのようなデザインと機能が盛り込まれるのか、以下伺います。</p> <p>(1) 今までも何度かデザイン案は提示されているが、最終的なデザインはどのような過程で、いつ・どのようにして決定されるのか。</p> <p>(2) 付加価値や使い勝手に直結することとなる設備はどのようなものが考えられているのか。</p>	町長 副町長 市街地整備推進室長 産業振興課長 担当課長

5月20日 午前・午後10時55分 受理

質問事項	質問要旨	指定答弁者
<p>2. 感震ブレーカーの普及促進を</p>	<p>私たちが暮らすこの日本では、地震のリスクが常に存在しています。過去においても、多くの貴重な命と財産が地震によって失われてきました。その中でも地震による電気火災は、二次的な災害として多大な被害をもたらしています。このような背景から、感震ブレーカーの設置は、町民の生命と財産を守る上で非常に重要な対策となります。</p> <p>令和6年1月1日に発生した能登半島地震は、その必要性を改めて浮き彫りにしました。この地震は、石川県能登地方においてマグニチュード7.6の強い揺れをもたらし、多くの建物が倒壊し、電気火災が発生しました。この事例からも、感震ブレーカーの普及がいかに重要であるかが理解できます。</p> <p>しかしながら、現状では感震ブレーカーの普及率はまだ十分とは言えず、多くの町民がその重要性に気付いていないのが実情です。このため、感震ブレーカーの普及啓発活動は、町民の安全を確保するためにも、急務と言えます。</p> <p>そこで、以下伺います。</p> <p>(1) 普及啓発に対して、町での取り組みは。</p> <p>(2) 取付けに際し補助金を出す自治体も多いが、当町での検討は。</p>	<p>町長 副町長 危機管理課長 担当課長</p>